

# 組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名：

文学部

部局長名：

田中共子

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p><b>1. 後期日程廃止に伴う志願者の確保と倍率向上を課題として、以下を実施する。</b></p> <p>①全学UAAと連携し、高校ニーズや社会動向を踏まえた教育情報の発信と入試広報を進める。</p> <p>②総合型選抜の初回実施状況を検証し改善について検討する。</p> <p><b>2. 新学習指導要領で学んだ学生の入学に伴う教育改革の実質化を課題として、以下を実施する</b></p> <p>①8から5分野への分野統合改革の初年次検証と見直しを行う。</p> <p>②主専攻・人文学総合・アドバンスの3種を新設したプログラム改革において、学修者主体の学びと教育の内部質保証の強化を検証する。</p> <p>③設置予定の研究力養成プログラムについて、大学院との接続を視野に制度設計を進める。</p> <p><b>3. 環境の変化に伴う学生支援の充実と学習機会の確保を課題として、以下を行う。</b></p> <p>①コロナ禍での現実的な留学生の派遣・受入を継続し、出入国制限のある留学生の入学・教育に配慮する。</p> <p>②好就職率の維持に向けて、ウイズコロナの環境で柔軟な学生指導を行う。</p> <p>③単位修得やメンタル面で不調な学生に適切な個別ケアを行い、休学率低下に努める。</p>	<p>⑤(2-1-1)</p> <p>⑤(2-1-3)</p> <p>⑤(2-2-2)</p> <p>⑦(4-1-3)</p>	<p>1.入試選抜方法の大きな変更への対応を課題として、以下を行った。</p> <p>①②入試説明会や高校訪問、学部HP、広報ビデオなどでの情報発信・入試広報に努めた。通常の高校訪問に加えて、近藤UAAの協力のもと県内有力校への学部長訪問を行った。志願倍率は一般選抜(前期日程)が1.8倍、総合型選抜が2.6倍であった。慎重に合格判定を行った結果、追加合格・二次募集は回避された。だが総合型選抜の合格者が想定を下回ったことから、合格基準の見直しが生じた新たな課題となり、既に入試委員会を中心にこの作業に着手している。</p> <p>2. 新学習指導要領で学んだ学生の入学に伴う教育改革の実質化を課題として、以下を行った。</p> <p>①②次年度より新分野に所属して新プログラムが適用される1年次生向けに、<u>主専攻プログラム・総合人文学プログラム・アドバンスプログラム</u>について、<u>新入生オリエンテーションやアカデミック・アドバイザー相談会</u>の機会などに丁寧な指導を行った。</p> <p>③研究力養成プログラムについて、暫定的には科目等履修生制度を活用して、優秀な学部生に大学院授業を履修させ、修了証を授与する方向で検討してきたが、更に大学院・学部の授業の同時開講を含めた新たな制度設計の検討を始めた。</p> <p>3. 環境の変化に伴う学生支援の充実と学習機会の確保を課題として、以下を行った。</p> <p>①コロナ禍で留学の受け入れ・派遣は一次的に減少したが、復調に向けた協議を始動させている。オンラインで繋がるなど、学習環境に制限が生じた学生の教育に配慮した。</p> <p>②Webを活用して学生のサポート体制の整備に努め、就職率は比較的高水準を保った。</p> <p>③コロナ禍において、<u>対面授業のみに頼らない新たな教育の形として、オンライン授業の工夫や、カウンセラーによるメンタルケアを含めたオンラインでの学生指導に注力し、学生の学習へのモチベーション維持に努めた。</u>その結果、休学・退学率の大幅な上昇は回避できた。</p>
<b>②研究領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p><b>1. SDGs研究大学における文学部の研究活動活性化を課題として、以下を行う。</b></p> <p>①第三期の文学部プロジェクト研究の成果公表に予算を配し、社会発信を強化する。</p> <p>②文学部学術出版助成制度で学術図書刊行を推進する。</p> <p>③コロナ禍に配慮しつつ国際共同研究を推進する。</p> <p>④若手教員への独立基盤形成支援、海外研究機関派遣、各種表彰推挙、大学院指導資格付与を積極的に行う。</p> <p>⑤文明動態学研究所との協力体制を充実させ、研究交流を軸に活動性を高める。</p> <p>⑥Q1ジャーナルや英文査読誌への投稿支援策として、投稿費・英文添削費助成などを検討する。</p> <p><b>2. 厳しい財政状況下における研究資金の確保を課題として、以下を行う。</b></p> <p>①科研費の新規採択率・保有教員率・獲得金額の高水準維持のため、情報共有や応募支援を進める。</p> <p>②大型科研の獲得経験者を指導役に、基盤研究(B)以上の応募支援体制を構築する。</p> <p>③大型科研申請のインセンティブ制度として、基盤研究(B)以上の高評価不採択者への研究費助成などを検討する。</p>	<p>⑮(8-1-1)</p> <p>⑯(9-2-1)</p>	<p>1. SDGs研究大学における文学部の研究活動活性化を課題として、以下を行った。</p> <p>①文学部プロジェクト2件を実施した。その成果を、シンポジウム2回・講演会等2回・上映会監督トーク2回として、積極的に社会発信した。次年度公開講座もプロジェクト担当者が実施する予定で企画している。</p> <p>②文学部学術出版助成公募を行った。次年度に単著1冊が刊行予定である。</p> <p>③文明動態学研究所と協力し、be-archaeoプロジェクトを推進した。この成果の一つとしてQ1ジャーナル論文が新たに1件刊行された。</p> <p>④任期付き若手教員に対し、特別研究費を配分した。トップリサーチャー制度に若手教員を推薦した。</p> <p>⑤文明動態学研究所のプロジェクトのうち6件に文学部教員が参画し、学際的研究を推進した。</p> <p>⑥英文雑誌投稿支援策の検討を進めた。実施例の蓄積と成果発信が新たな課題である。</p> <p>2. 厳しい財政状況下における研究資金の確保を課題として、以下を行った。</p> <p>①②科研費FDを開催し、科研費申請書の添削事業を行った。事業効果の検証が新たな課題である。</p> <p>③大型科研申請のインセンティブ制度の新設を構想し、基盤研究B以上の申請者に、セーフティネットとして研究費を配分する計画について検討した。実施例蓄積が新たな課題である。</p>
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p><b>1. ウイズコロナ時代の新たな地域貢献・情報発信の形を構築することを課題として、以下を行う</b></p> <p>①コロナ禍の状況に配慮しながら、効果的な社会への研究成果の発信、および高大連携事業のあり方を検討し実行する。</p> <p>②文学部の特徴や研究・教育活動をより詳細に発信する手段としてHPの活用を進め、イベント報告や英語での情報発信を充実させる。</p> <p>③文学部の魅力をより新しい情報を使って伝えるため、紹介動画の改訂作業を進める。</p> <p>④SDGsに関する教員・学生の活動を支援する。</p> <p><b>2. 今日の社会環境の中で建設的な国際貢献・国際交流の形の構築を課題として、以下を行う</b></p> <p>①大学間協定・部局間協定の拡充を図る。ポルドー・モンテニュー大学など、文学部の将来構想において重要となる協定校との絆を強める。</p> <p>②日本語・日本文化研修留学生等の国費留学生を積極的に受け入れ、国際交流行事を開催する。</p>	<p>⑳(14-1-3)</p>	<p>1. ウイズコロナ時代の新たな地域貢献・情報発信の形を構築することを課題として、以下を行った。</p> <p>①Webを活用して、効果的な社会への研究成果の発信を進め、またオープンキャンパス後の情報提供・情報交流を実現して、情報提供の範囲を拡大した。</p> <p>②HPを重要な広報ツールと位置づけ、イベント報告や英語での情報発信を充実させ、文学部の特徴や研究・教育活動をより詳細に発信した。</p> <p>③紹介動画の改訂作業を進め、文学部の魅力をより新しい情報を使ってより広く伝える体制を整えた。文学部が重視する多言語・多文化交流の一環として、新たに外国語版の作成を進めた。対応言語を増やすこと、経費を確保しての戦略的な展開が新たな課題である。</p> <p>④SDGsに関する学生活動に助成を行い、活動を支援した。</p> <p>2. 今日の社会環境の中で建設的な国際貢献・国際交流の形の構築を課題として、以下を行った。</p> <p>①ドクターストモ大学と新たな部局間協定を締結し、協定を拡充した。全学協定校のカセサート大学の表敬訪問を受けて、新たな交流協議を開始した。文学部の将来構想における重要な協定校として、国民大学を表敬訪問し、ポルドー・モンテニュー大学、ポーフォーム大学、ベルリン自由大学との交流を進めた。予算の確保が新たな課題であり、全学の戦略経費に応募した。</p> <p>②日本語・日本文化研修留学生、特別聴講生、国費留学生を積極的に受け入れ、協定校との国際交流行事を開催し、文学部の国際貢献・国際交流を前進させた。</p>
<b>④管理運営領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p><b>1. 学部のガバナンス改革を視野に入れた体制作りを課題として、以下を行う。</b></p> <p>①学部長のリーダーシップを支える体制として執行部と委員会の連携を強化し、一貫性を備えた毅然とした学部運営に努める。</p> <p>②教育改革や組織改革では、構成員の業務負担の軽減や均等化を念頭に置く。</p> <p><b>2. 新たな教員選考ルールの下で優秀な人材を確保することを課題として、以下を行う。</b></p> <p>①採用人事では広く人材を募り、女性や外国人の採用に努める。</p> <p>②中長期的な将来展望に基づく人事計画を念頭に、年間予定を周知して準備する。</p> <p><b>3. 業務の複雑化が進む中で業務構造の改革を課題として、以下を行う。</b></p> <p>①部局内サバティカル制度(長期研修制度・特別研究期間制度)の利用に配慮する。</p> <p>②文明動態学研究所への移籍教員の業務負担を継続的に見直す。</p> <p>③学部長室の特別契約職員を戦略的な事業に関与させる。</p> <p>④HPやBCSなどの効率的な管理・運営方法を工夫する。</p> <p>⑤財源の有効活用のため、教育基盤経費の重点配分を進める。</p> <p>⑥リスクマネジメントの重要事項について啓発を行う。</p>	<p>㉑(11-1-3)</p> <p>㉒(11-2-3)</p> <p>㉓(15-2-3)</p>	<p>1. 学部のガバナンス改革を視野に入れた体制作りを課題として、以下を行った。</p> <p>①定期的な学部長室会議では委員長と執行部の連携を進め、一貫性ある学部運営に努めた。</p> <p>②業務負担軽減を念頭に、委員会の形態など組織改革を進め、効率を工夫して会議時間を短縮した。</p> <p>2. 新たな教員選考ルールの下で優秀な人材を確保することを課題として、以下を行った。</p> <p>①採用では、女性の応募歓迎と同水準ならダイバーシティを考慮する旨を明記して広く人材を募り、女性教員の採用に至った。採用実績を重ねることが新たな課題である。</p> <p>②中長期的な将来展望を念頭に、図解資料で人事の年間予定を周知し、計画的な準備を促した。</p> <p>3. 業務の複雑化が進む中で業務構造の改革を課題として、以下を行った。</p> <p>①部局内サバティカル制度として、長期研修制度・特別研究期間制度の利用に配慮した。</p> <p>②文明動態学研究所への移籍教員の業務負担を継続的に見直した。</p> <p>③学部長室の特別契約職員を、講演会の情報整理や申請書作成など戦略的な事業に関与させた。</p> <p>④Webでの情報提供や意見集約を活用し、HPやBCSなどで効率的な管理・運営方法を工夫した。適用を拡大することが、新たな課題である。</p> <p>⑤財源の有効活用のため、教育基盤経費の重点配分を進めた。</p> <p>⑥情報セキュリティ、メンタルヘルスの研修会など専門家の力を得てリスクマネジメント啓発を行った。継続的な教育・支援が、新たな課題である。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。